

## 自己改革実践状況（農業者の所得増大、農業生産の拡大）

実践事項	平成 28 年度末現 状値	平成 30 年度末目 標値	平成 28 年度取組内容	平成 29 年度取組計画
地域営農ビジョン運動 の実践	営農センターご とに地域営農ビ ジョンを策定	営農センターご とのビジョンを 策定し実践	各営農センターのビジョンを 策定しました。（全体の農業 振興計画を策定中）	地域営農ビジョンの実施及び 検証を行います。
農地中間管理機構との 連携による農地の面的 集積	担い手集積面積 748ha、集積率 25.2%	担い手集積面積 875ha、集積率 30%	水稻生産実施計画書配布時に 「農地中間管理機構のしく み」を同封し、地区座談会に て説明を行いました。	農地中間管理機構等関係機関 との連携を強化します。
J A 出資型法人の設立 等による農地活用	総代会議案取り 下げ	J A 出資型法人 の安定経営 ⇒ J A 出資型法 人の設立検討	農協自体が土地を取得しまし た。	施設の利用計画について再考 します。
担い手専任体制（T A C 体制）・営農指導体制の 整備・強化	担い手支援課 T A C 活動支援、営 農指導員 20 名 （パート含む、専 門指導員なし）	専門指導員の配 置 3 名（営農技 術、営農企画、農 業経営）営農指導 員 20 名	平成 28 年度は中部 5 名、西 部 2 名、北部 3 名、本所 6 名、 パート 4 名の指導員体制で新 規就農者、担い手農家の巡回、 技術経営指導を行いました。	研修への参加や実施研修によ り営農指導を強化します。ま た、支所機能再編により体制 整備を行います。
経営安定化に向けた集 落営農法人間の連携強 化	法人間連携強化 （連携組織の設 立）	法人間連携促 進・大型機械共同 利用整備、連携組 織の組成に向け た協議・検討・提 案の実施	大道地区 3 法人の連携に向 け、作付品種、機械利用調整 についての協議会を開催しま した。法人に対してたまねぎ 栽培講習会、水稻現地研修会 を開催しました。	農業機械の法人間利用につい てのルールを見直すとともに 機械利用計画を作成します。 法人間での品種を調整しま す。
新規就農者の育成・支援 対策の構築	新規就農・就業者 数 3 名／年	新規就農・就業者 数 5 名／年	関係機関と連携し新規就農者 への指導巡回を行いました。 平成 28 年度は 3 名の新規就 農者を受け入れました。	就農後の技術指導、経営指導 等のフォローを行います。 5 名の新規就農者の受け入れ を目標に取り組みます。
「多様な担い手」の育成 による地域活動活性化	ファーマーズマ ーケット出荷者 556 名	ファーマーズマ ーケット出荷者 500 名⇒600 名	インショップ（イオン等）意 見交換会を 3 回開催しまし た。定期的に直売所役員会を 開催しました。	出荷会員に定期的な出荷をお 願います。売れ筋情報等を 定期的に発信します。
酒造好適米・加工用米・ 飼料用米の生産拡大	酒造好適米 38ha 加工用米 79.5ha 飼料用米 77ha	酒造好適米 40ha 加工用米 100ha 飼料用米 100ha	6 箇所の実証圃で（B B 肥料） 試験を行い、結果を農業振興 大会で発表しました。	実証実験状況を検証し継続し て実証圃を設置し生産拡大に 取り組みます。酒造好適米に ついては県調整で需給バラ ンスを維持します。
ファーマーズマーケッ ト・直売所の拡充とネッ トワーク化による地産 地消の拡大	直売所売上 3 億 6,300 万円 インショップ売 上 2,091 万円	直売所売上 3 億 7,000 万円 インショップ売 上 2,000 万円⇒ 2,500 万円	産地間連携（仁保生産グルー プ）を行いました。	新規出荷者の発掘及び勧誘を 行います。所得確保（増大） ができる栽培品目の提案を行 います。

地元企業と連携した 6 次産業化や農商工連携 の促進	地産地消費促活動	新商品企画開発 (タケノコ水煮 等)	タケノコの水煮を企画開発 し、直売所やイオンで販売し ました。	売り先を拡大するため、他の スーパーマーケット等での販 売を検討します。
出荷安定対策による重 点品目野菜、果樹の面積 拡大	冬至かぼちゃの 生産出荷を開始	各部会での面積 拡大、地域に合っ た新規作物の推 進	たまねぎの作付面積拡大を図 るため各センター単位で部会 員及び一般生産者を対象に育 苗講習会を開催しました。 新規に冬至かぼちゃの生産に 取り組み 1.2ha の栽培面積を 確保しました。	たまねぎは、べと病の対策を 周知し、生産量の確保を図り ます。冬至カボチャの栽培技 術の確立及び栽培面積の拡大 を図ります。センター毎に選 定した品目の生産拡大及び栽 培管理のための講習会を開催 します。
担い手の取引条件に応 じた弾力的な価格設定	大型農家利用高 奨励 320 万円、 担い手奨励 140 万円	大型農家利用高 奨励及び担い手 奨励の継続	大型農家利用高奨励及び担い 手奨励を継続しました。	担い手との取引条件に応じた 弾力的な価格設定を行います。 大型農家の経営に貢献でき る割引を検討します。
ホームセンター及び商 系業者等、競合先対策の 強化	肥料農薬の価格 引下げ	商系直取引	全農へ生産資材価格引き下げ を交渉しました。	低コスト生産資材を仕入れる ため商系業者との取引を含め 検討していきます。
栽培暦の集約化による 生産コストの低減	中部ブロックで の栽培ごよみ統 一について協議	県域での栽培ご よみの統一化(東 部、中部、西部)	中部ブロックにおいて、米の 栽培ごよみの統一に向けた協 議を行いました。肥料の統一 に向け肥料試験を実施しまし た。	肥料試験の結果をもとに検討 し銘柄統一にむけた協議を行 います。また、並行して農薬 についても検討を始めます。
J A 域を超えた広域物 流体制の構築	3 J A (防府とく ち、山口宇部、山 口美祢)	全 J A 参加によ り価格メリット を出す。	平成 31 年 4 月県下 1 J A に向 けて協議中	広域物流体制構築に向けた協 議を継続する。

## 自己改革実践状況（地域の活性化、組合員・地域住民との関係深化）

実践事項	平成 28 年度末現 状値	平成 30 年度末目 標値	平成 28 年度取組内容	平成 29 年度取組計画
J A ぐらしの活動基本方針の実践による「ぐらしの相談機能」の拡充	未設置	会議体各支所設置 担当者各 1 名	支所機能再編計画において、ぐらしの活動担当者設置を検討しました。	プロジェクト等でぐらしの活動担当者の具体的活動内容を協議し、支所再編時に担当者を設置します。
支所を拠点としたぐらしの活動の実施	—	支所 2 回／年	支所行動計画に沿ってぐらしの活動を実施しました。	ぐらしの活動担当者を設置し、支所独自で企画・立案ができる体制を構築します。
組合員組織と連携した J A ぐらしの活動の活性化	青壮年部 62 名 女性部 1,574 名 フレミズ 74 名	青壮年部 70 名 女性部 1,700 名 フレミズ 120 名	組合員組織と連携した J A ぐらしの活動を実施しました。（食農教育等）	幅広い年齢層が参加できる多種多様な企画を協議し、部員数の拡大につなげます。
農業体験学習・都市農村交流・J A 間交流等を通じた食農教育の展開	ちゃぐりん 20 名	ちゃぐりん 30 名 新規取組 支所×20 名	ちゃぐりん農園や出前授業等の食農教育を展開しました。	支所再編後は支所での新規取組を検討します。
「J A 健康寿命 100 歳プロジェクト」の取組強化	ウォーキング 150 名 健康体操 59 回	ウォーキング 300 名 健康体操 100 回	ウォーキング大会、健康体操、ペタンク等の健康管理活動を開催しました。	活動の定着化を図るとともに、取組内容についても検討します。
認知症施策に対する J A 支援体制の構築	認知症サポーター研修 1 回 新入職員	養成研修 1 回／年 全職員	新入職員を対象に認知症サポーター研修を受講させました。	中央会と連携しフォローアップ研修を開催します。
拠点を活用した生活インフラ機能の発揮	外務活動を通じ実施	外務活動を通じ実施 全職員	J A 防府とくち独自の見守り活動要綱を策定し、外務日や渉外職員の訪問を通じて見守り活動を実施しました。	女性部・青壮年部にも周知し、J A 組織が連携して見守り活動を実施します。
組合員の意思反映・運営参画の強化	支所運営委員会 未設置	支所運営委員会 規模 各支所 15 名	支所再編計画の中で支所運営委員会の設置を検討しました。	支所運営委員会の具体的な運営方法について協議します。
准組合員の「農」に基づくアクティブ・メンバーシップの強化	総合ポイント制度 未設置	H30 年度導入	総合ポイント制度導入について検討しました。	利用者にとって魅力あるメリットが出せるよう設置までに検討を重ねます。
組合員のアクティブ・メンバーシップの強化に向けた役職員の役割	全職員研修実施	新規取組 6 件 全役職員	全職員研修にて意識改革に向けた取り組みを実施しました。	支所再編後は支所運営委員会の中で組合員の意見を集約し、支所行動計画に反映させます。
地域密着型広報の展開	FMワッショイ 1 回／月	支所だより作成 全支所 員外広報誌発行 年 1 回	支所だよりを一部の支所で発行しました。また、地元ラジオを利用した広報活動を展開しました。	ホームページを充実させるとともに、員外広報誌の発行を検討します。